

令和3年度第3回自立支援協議会地域生活支援部会 議事要旨

1. 開催日時 令和4年2月1日(火)午後1時30分～午後3時30分
2. 開催場所 オンライン会議
3. 出席者 (委員) *団体名のみ記載
(福) 佑啓会、(福) 敬心福祉会、千葉商科大学、いちょうの会
浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」
浦安市自閉症協会、浦安手をつなぐ親の会、(福) サンワーク、(福) なゆた
(福) パーソナル・アシスタンスとも、(福) 南台五光福祉協会、(特非) あいらんど
(特非) 千楽chi-raku、タムス浦安病院、浦安商工会議所、(福) 一路会(障害者グループホーム等支援ワーカー)、浦安市社会福祉協議会
(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会
2. 議題
(1) 第3回自立支援協議会の報告について
(2) 第2回地域生活支援部会の振り返りについて
(3) 暮らしに関わる実態把握について
3. 閉会

5. 配布資料

- 議題(1)資料 第3回自立支援協議会(令和3年11月25日(木))報告
議題(3)資料1 暮らしに関わる実態把握について
議題(4)資料2 グループホームの整備状況について

6. 議事概要

※グループホームについては「GH」と表記します。

- (1) 第2回自立支援協議会の報告について

■説明(事務局)

11/25(木)開催の第3回自立支援協議会の内容について、事務局より報告を行った。

■主な意見

特になし

- (2) 第2回地域生活支援部会の振り返りについて

■説明(リーダー)

リーダーより前回の振り返りが行われた。

■主な意見

特になし

- (3) 暮らしに関わる実態把握について

■資料説明(事務局)

第2回部会の議論で、課題や論点が様々あったので、調査票案を作成する前に、実態把握についての5つの方向性『①東野パティオGH（ふる里学舎浦安）入居者に対する調査、②GH待機者に対する調査、③GH入居者に対する調査、④GH運営事業者に対する調査、⑤潜在的ニーズの調査』について整理した。

事務局より資料の説明を行った後、リーダーの進行のもと、5つの方向性について委員から意見が出された。

■補足説明（委員）

GHの待機者について、市川市でも待機者リストにいる120人に意向を確認するアンケートを行い、約60人から回答があった。アンケートを集計した中で出てきた課題として、そもそも最初から待機者にエントリーしていない人もいないのではないかということが挙げられた。

また、最近、50代後半からのGH入居の相談が多いので、市川市に相談して、障がい者支援区分4.5.6の方の人数の把握をはじめたが、40代～60代で障害福祉サービスを利用しているが、区分なしの方が多くいることがわかった。これらの方々の多くは、1人暮らしができる方でもなく、色々なサービスを使える方でもない。これも潜在的ニーズであり、課題ではないかという話になっている。この方々とどうつながるかが課題となっている。

GHの待機者として、エントリーしていないで働いている人。そのような方が、親が亡くなった場合にどう把握していくのか。障害者就業・生活支援センターのいちされんとも把握方法について考えているところだ。

■主な意見（リーダー：リ、サブリーダー：サ、委員：委、事務局：事）

①東野パティオGH（ふる里学舎浦安）入居者に対する調査

ア 調査の方向性

ふるさと学舎浦安の入居者に対し、今後の暮らしの希望等について、意向調査をすることとする。

イ 質疑は特になし。

②GH待機者に対する調査

ア 調査の方向性

待機者リスト、申込者からのアセスメントを分析し、ミスマッチ解消を目指す。

イ 主な意見

委：東野パティオ入居のみを希望している方の理由について調査してほしい。

→事：理由として、今までGHの希望をしていなかった方が、まずは東野GHで試してみたいと思う人が多かった。まずはGHとはどんなところか気になるという人が多い。

委：待機者の方には、緊急度を聞いた方がいい。相談支援専門員がついていると思うので、ご家族の様子をわかっている相談支援専門員に緊急度が高い方の洗い出しをしていた方がいいと思う。

リ：入所施設を希望するけれども、浦安市にはないので、GHを希望している方も緊急度が高

いと思う。

委：待機者には、GHを体験してほしい。そのような積み重ねがないと、待機者の方には遠い存在であると思う。

委：コロナ禍で、病院から試験外泊になると、病院に戻って来たあと個室隔離が必要になるなどの理由でスムーズにいかない。浦安の方は、浦安が大好きという人が多い。ただ、親と一緒に暮らしていた方が経済的な負担が少ないというところもある。自治会の方や民生委員・医療ソーシャルワーカーがどれだけ資源を知っているかもアンケートをしてほしい。

サ：マッチングをしていない理由を聞いてほしい。数値を入れていくといいと思う。この人数であれば、細かく聞くのもありだと思う。

委：マッチングしない理由を聞いてほしい。また、退去された方で待機者になった方がどのくらいいるのか。それを事業者間で補完できるかもしれない。浦安市ではないが、土壇場に入居しない方も多し。それらの理由も分析してもいいと思う。経験上では、本人は希望するが家族が離れられないという理由がほとんどだった。

委：自身の家庭の場合は、自己決定が大事だと思っている。コロナもあるし、体験しづらいところもあるが、そこまで体験できるGHがない。ざっくりばらんにGHに相談出来たら良い。浦安の方は、浦安が好きな方が多い。

委：GHの待機者48名だが、必ずしもGHを増やせばいいというわけではないことが分かった。

委：申込者はどなたからの申込みが多いのか。

→事：圧倒的にご家族からが多い。

委：調査項目の中で、だれがGHを希望するのか記載してもいいのではないか。

委：市川市でも圧倒的に親からの申込みが多い。区分が重い方ほど多い。本人には入居の話をしていない場合が多い。いざ入ろうとすると、キャンセルという事例は結構ある。

委：P7の数字、800人くらいの方は何らかのサービスを使っているのか。

→事：800人は何らかの障害福祉サービスを使っている。

委：浦安市GHの家賃は高いのか。

→委：家賃は高い。他の地域では生活保護の方が入居できる額で家賃を設定している。

生活保護の方の家賃補助は、浦安でも市川でも46,000円まで、障がい者だと特別給付費で56,000円まで入れる自治体も多い。また、浦安市は土地が高い。

委：事業所も家賃を高くしないとやっていけないというのものもある。これは、新規事業所が参入しない理由でもあると思う。家賃補助や、事業所への補助があるといいのではないか。

事：一GHに関する家賃補助や、施設整備補助について説明—

③GH入居者に対する調査

ア 調査の方向性

調査項目、調査内容について引き続き部会で検討する。

イ 主な意見

委：GH入居を決めた理由。また、退去理由も聞いてほしい。

委：入居者の主な収入源を聞いてみてはどうか。生活保護でアパート暮らしが難しい方は、負担としては変わらないが、GHから1人暮らしに行くのに不安を感じることも多いのではないか。

リ：日々の運営に反映できるものが見えてくるかもしれない。

④GH運営事業者に対する調査

ア 調査の方向性

浦安市内のGH運営事業者を対象に、運営協議会を開催し、意見交換を行い、現場の状況等を確認する。

イ 主な意見

リ：2月14日に浦安市内の事業者で会議を開催する予定がある。

委：入居後に家に帰りたというケースはあるのか。

→委：体験で1泊した後に帰りたくなった人はいる。家族とのすり合わせで、本人に1ヵ月に数回は帰れると思ってくれれば、納得する方もいる。

委：いきなりGH入居だと本人が準備できていないので、短期入所やGHの体験利用を経験してからがよい。

委：30代になって、自立心が出てからGHを経験すべきとも思っているがどうか。

→委：早いうちから体験した方がいいかと思う。若いうちから、将来は1人で暮らさなければいけないことを話していく。いま支援に苦戦しているのが50代の方、短期入所の利用についても難しくなっている。

委：色々な方がいると思うが、短期入所を利用してすぐにここが良いという方もいる。事業者さんとしてそれはどう思うのか聞いてみたい。

通過型のGHに入居している方で、次のGHへ移行できず、いったん自宅に戻って待機になった場合、GHでの生活に慣れてしまい、家に帰りたと思うか心配だ。

待機中になった場合にGHをどう探していくのか。

→リ：通過型は、2年を目途に次の住まいへ移行となっているが、入居した時から探していくことになると思う。次の入居先は、相談支援専門員やGH支援ワーカーとも相談していきながら探していく。GHに入居するのに、何を目標とするかを見据えて、入っていただくことがいいかと思う。期限が来たから退去してもらうことは想定していない。

委：週末に短期入所を使っている人等にも調査してほしい。

リ：潜在的ニーズの話にもなってくると思う。

委：相談支援専門員の立場では、訪問系のサービスの組み合わせ等を、一緒に考えていくことになる。

委：GHには、介護サービス包括型、日中サービス支援型、外部サービス利用型がある。GHだけでは支援がまかなえない部分を、ヘルパーを入れて補うために外部サービス利用型にする方法があるが、事業所が導入出来ない理由があると思う。それを確認してはどうか。

委：現在、GHにおいて、区分が軽い方にはヘルパーの支援が入れない。区分の軽い方で将来1人暮らしをしたい場合、今はGHで支援をすることになるが、そこまで支援できないのが実情だ。

外部サービス型をしている事業所は少ない。千葉県でも1・2か所。理由は、事業所収入が減ってしまうからだ。

⑤潜在的ニーズの調査

ア 調査の方向性

潜在的ニーズの把握方法について、引き続き検討する。

浦安市では、サービスを利用しているものの、支援区分のない方は、20代80人、30代69人、40代45人、50代37人、60代14人、70代以上6人となっている。この方たちのほとんどは、就労系サービスのみを利用している方となっている。

イ 主な意見

委：一番難しい問題だと思う。親が亡くなり、障がいのある方だけがいきなり取り残されるといことが起きている。どこにも、つながっていないというのが問題だと思う。

委：医療機関の立場で何ができるかと考えると、相談支援専門員と密な連携をとるべきだと感じた。親が倒れた場合にはレスパイトする施設としては医療機関も使える。地域包括ケアシステムの在り方を考えていきたいと思う。

リ：今回いただいた意見を参考に各種調査に向けて進めていく。

(4) その他

■説明（事務局）

令和4年1月8日（土）に開所した障がい者等歯科診療所の紹介を行った。